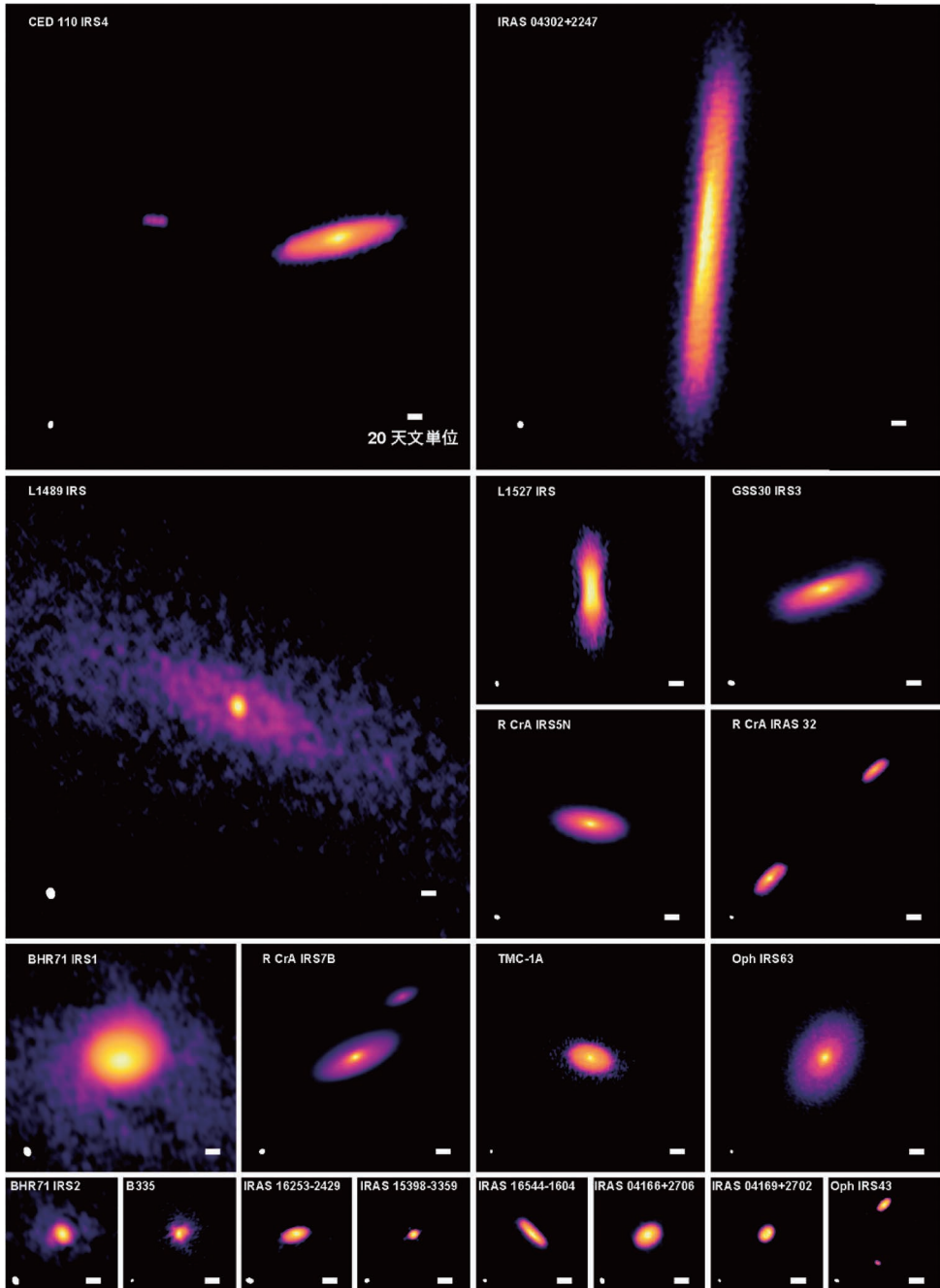
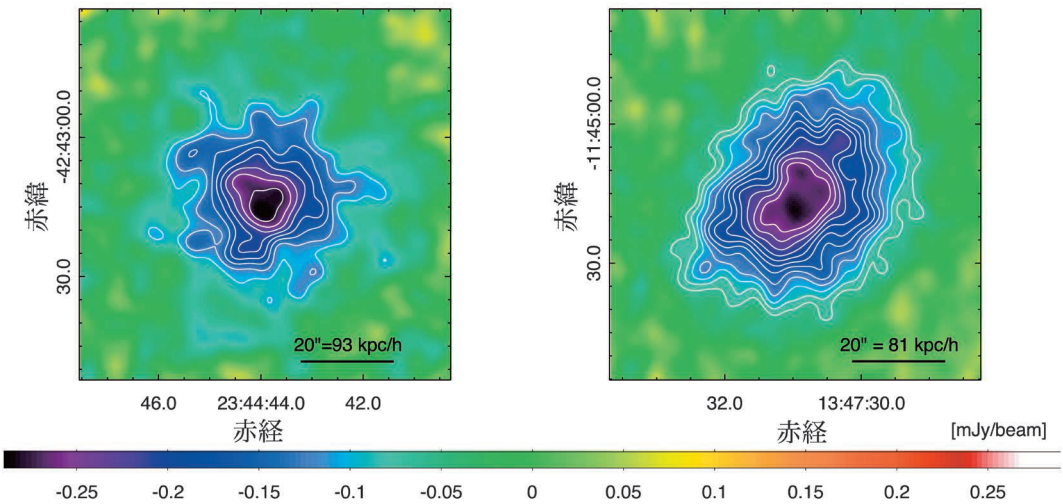
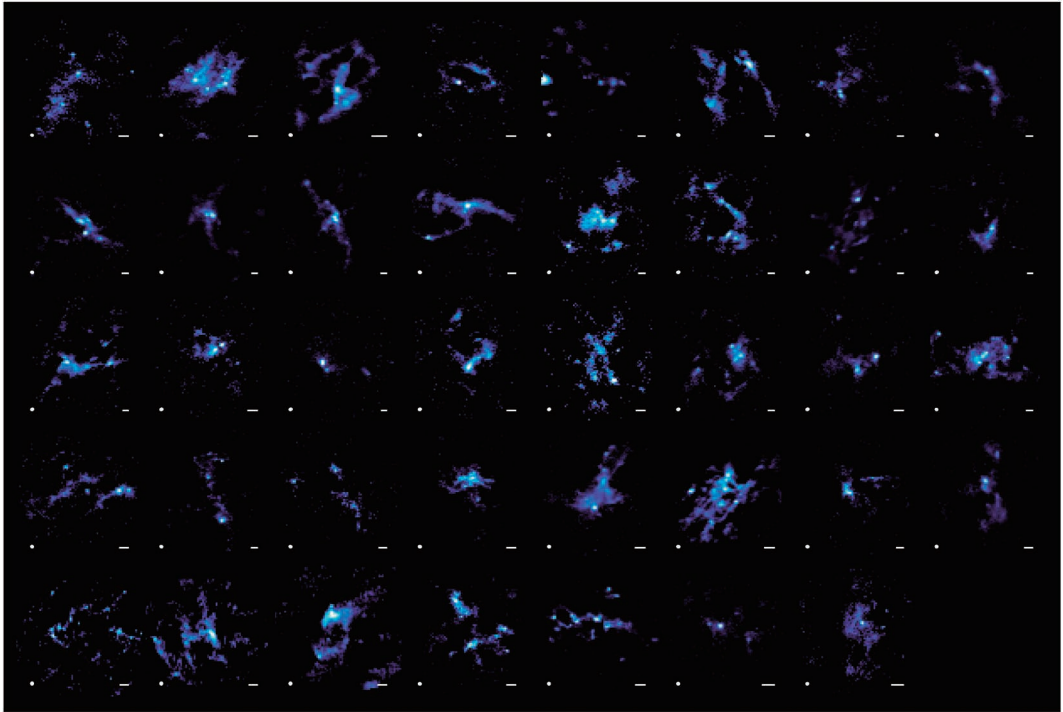


アルマ望遠鏡10周年特集号記事より



アルマ望遠鏡ラージ・プログラム eDiskにより取得された19の原始星システムに付随する円盤の波長1.3ミリ連続波イメージギャラリー。各パネルの左下には、分解能(100分の4秒角; 7天文単位に相当)、右下には20天文単位のスケールが示されている。Credit: N. Ohashi et al., ALMA (ESO/NAOJ/NRAO) (大橋記事 p. 76 図2 参照)



(上): アルマ望遠鏡で観測した39の赤外線暗黒星雲における塵の分布。ここで大質量星が誕生することが期待される。各パネルの左下には観測の分解能を、右下には0.1パーセクに対応する長さを示している。Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO), K. Morii et al. (森井記事p. 86 図4参照)

(下): アルマ望遠鏡による銀河団のスニヤエフ・ゼルドビッチ効果の撮像観測。左パネルはフェニックス座銀河団の、右パネルはRXJ1347.5-1145銀河団のスニヤエフ・ゼルドビッチ効果の画像。白色の等高線はスニヤエフ・ゼルドビッチ効果の強度を示す。Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO), T. Kitayama et al. (上田記事p. 95 図2参照)